



国鉄新潟

NO. 677
発行
09・12月10日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部

分科会の運動を強化し 地本の運動をリードし

第十九回国労新潟地本運輸協議会定期委員会が十一月二十九日十三時から新潟市ウエルサンピアで開催されました。

今回は定期委員会と全体の交流会を含めて企画され二十九、三十日の二日間で開催されました。各職場から三〇名を超える多くの組合員が出席し盛り上がりました。来賓には、エリア本部運輸協議会の木立議長、地本・田澤書記長、貨物協・勝山議長が出席しあいさつがありました。



検修外注注に
意見が集中

開会あいさつの後、座長の選出では、中越の長谷川委員が選出され議長あいさつ、来賓あいさつがあり方針提起に入りました。全体の討論では、旅客会社の「グループと一体となった業務体制のさらなる推進」の提案を受けて、検修の全面外注についての意見が集中しました。エリアの木立議長からの経過・内容など説明があり、全体の意見

石津議長あいさつ



運輸協の運動が見えていない状態だ。どう構築していくのか。何をするのか、各分科会を強化し改善していく。要求作りでは大きな役割がある。運輸協の組織人員は70数名で、そのうち、貨物協は23名になる。

地上勤務分科会を再構築するために役員会など会議を開催してきた。役員を選出して運動を進めてきた。

運輸協は、地本の運動をリードし具体的に職場の運動を作り上げていこう。



第19回国労新潟 運輸協議会 定期委員会開く



として、問題点や今の職場の現状など多く出されました。運輸協の定期委員会の後、それぞれ各分科会定期委員会に分かれて更に具体的な職場の問題点に対して議論しました。

定期委員会終了後 交流会の開催

定期委員会終了後、全体で交流会を開催し交流を深めました。最近では、三〇名を超える組合員での泊りがけでの日程は行われていませんでしたが、今回は多くの組合員が出席しました。来年は、エリア本部・運輸協の交流会が新潟で予定されます。



地本・田澤書記長 あいさつ

当面する行動について、十二月六日の国鉄闘争新潟県集会在開催される。最大限の参加をお願いしたい。

第六十二回地本定期大会では運動方針と事務所問題について決定したが、事務所問題については、今後も議論し意見をしっかりと受け止めていくこと、そう考えている。検修の全面外注化について支社提案は一月に入ってから、実施は二十二年四月以降だと考えるがそんなに簡単にやれない。交渉を強化し取り組みを進めていく。組織について、定期大会で役員が改選された。若返った役員人事になった。先輩が退任された状況から、我々が皆で任務を分担しひとり一人が運動にかかわっていく。全体が組織に結集していこう。

勝山議長あいさつ

世の中は当たり前前のがやられていない。国労という組織は労働者として闘っていく一員としていきたい。きちんと声をだせる組織としていこう。



全体の意見



「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」について明確に反対と、表明していない。エルター社員についての職協加盟についてどう考えているのか。
 エルター社員についての労働条件改善のために運動をつくっていくか、いかなければならない。全体のものにしていかなければならない。
 検修外注化提案について、職場ではいろいろ他労組からの情報が流れている。エリア内他職場はどうなのか。
 外注化について、新津車両センターが先行されているが、快適な車両が提供されているのか。現状でも厳しい実態がある。車両に乗る人について調査など要求を含め取り組みを広く進めていく。
 長岡車両センターへ、貨物からの出向が七名、出向者の扱いについてどうなるのか。
 新インフルエンザについて休む場合は年休で対応している。勤務上はどうなのか。交渉ではどうか。

エリア本部運転協 木立議長あいさつ

検修外注化について十月二十九日に提案された。この外注化は検修だけでなく全体的なものだ。十月三十日に分科会を開催し、分科会では立場を明確にさせること、きちんと反対していくことなど意見が出された。

緊急対策会議に 三十名参加

東京で緊急対策会議が開催、三十名が参加した。エリアの中で対策会議を設置し運転・工作とそれ以外の職協も含めていくこと。駅の委託化によって事故が多発、輸送障害が発生している。車両故障や変電所の火災なども発生している。委託化は危険性や労働強化につながっている。その事故について検証している。



緊急提案力

会社は向のために緊急提案したのか。ずっとあたたためてきたけれど全面外注化の提案になった。

それは、減収益・千円の高速代が影響している。ギリギリまでの車両の減車、検修関係・メンテナンスについてもギリギリまでやっていること。各社とも厳しい経営実態になっている。少子高齢化社会だから、今後厳しい状況になる。人件費を減らすため外注化。
 西日本の脱線事故についてコスト削減が大きな原因だ。

清水清太郎の秋のつばき 参列者及びKN山の会幹事の案内

☆とき 1月13日(水)
 ☆ところ 新年会＝馬場温泉保養所12:30分～
 ☆指定列車 新潟 7:17分
 桑田 7:26分
 夜川 7:31分
 新津 7:39分
 五泉 7:56分
 ☆五泉駅 下草そこからタクシーで現地へ向かいます。
 ☆持物 背負子が必要です。
 無いは波部まで通降下さい。
 ☆会費 4,000円位

これがらの運動は

これからの運動について、この提案をしっかりと把握していく。外注会



省令改正の背景

背景について、規制緩和について交渉はしていないが、これから出ていく。国労は省令を出していく。省令は大まかな内容が書かれているが、その内容から会社をせめて行く。事故の多発する背景の中で要求を前進させる。



社への出向について、今まで条件があったが今後は若年出向がある。それは、丸ごと全面外注化。
 出向期間は三年だが、しかし元職場に戻れるのか。全面外注化だから元職場の業務は投管しかない。
 その業務はできるのか、だからさらに出向になる。すべての運転職場で提案内容を正確に把握する。問題点について集会で意見を出していく。すでに委託業務されているものは全体でまとめていく。労働条件について調査していく。委託と直営との比較をする。
 十二月七日に第一目の解雇要求を出す。交渉について解雇要求を三回くらいやっていく。その内容を職場へかえしていく。